

《実績》

2017年度、我々が手術室で根治切除を行った主な疾患は大腸癌 70 例（うち腹腔鏡手術 30 例）、胃癌 25 例（うち腹腔鏡手術 3 例）肝胆膵腫瘍 15 例、胆石症などに対する胆嚢摘出 57 例（うち腹腔鏡 45 例）で、2016 年度より手術症例は 40 例増えた。その他の詳細は表 1 に記載したとおりである。

ところで、当科では免疫チェックポイント阻害剤の標的の一つである PD-L1 の発現や、細胞障害性 T 細胞（CTL）、腫瘍免疫を制御する Treg の腫瘍内への浸潤の程度等の評価を倫理委員会での承認のもと、免疫組織学的手法により肝胆膵の難治性腫瘍に対し行っている。特に肝細胞癌では腫瘍への CTL 高浸潤例では予後が良く、逆に Treg 高浸潤例では予後が悪い傾向が認められた。その他にも複数の知見が得られており、肝細胞癌での予後に免疫的機序が関与している可能性を学会で報告している。

表1

食道	食道手術癌（開胸）	2
胃	幽門側胃切除術（悪性）	14
	胃全摘術（悪性）	8
	噴門側胃切除術（悪性）	0
	腹腔鏡下胃切除術（悪性）	3
	腹腔鏡下胃全摘術（悪性）	0
	胃切除術（良性・開腹）	1
	胃切除術（良性・腹腔鏡）	1
	胃その他手術	9
小腸・大腸	イレウス解除術	7
	小腸切除術	2
	虫垂切除術（開腹）	10
	虫垂切除術（腹腔鏡）	10
	結腸切除術（開腹）	27
	結腸切除術（腹腔鏡）	18
	結腸（その他）	1
	人工肛門造設術	14
	人工肛門閉鎖術	7
	高位前方切除術	9
	低位・超低位前方切除術	4
	腹会陰式直腸切断術	0
	直腸手術（腹腔鏡）	12
	経肛門的直腸腫瘍摘出術	0
	Hartmann手術	2
	大腸全摘・亜全摘術	0
	直腸手術（痔核、裂孔、痔瘻、直腸脱など）	18
	骨盤内臓全摘術	0
	肝胆膵	HPD
PD		3
膵全摘		0
膵体尾部切除		0
肝切除（部分切除）		6
肝切除（亜区域切除以上）		2
肝門部胆管癌手術		2
胆嚢癌手術		2
胆管空腸吻合術		1
胆嚢摘出術（開腹）		12
胆嚢摘出術（腹腔鏡）		45
胆管切開術	0	
ヘルニアなど	鼠径・大腿ヘルニア	97
	腹壁ヘルニア（開腹）	3
	腹壁ヘルニア（腹腔鏡）	2
	内ヘルニア	1
	汎発性腹膜炎手術	5
	その他（全麻）	3
合 計	363	